

「三ヶ日みかん」のブランド力を強化する基盤整備の推進 Promotion of the Land Improvement to strengthen the brand power of "the Mikkabi mandarin orange"

三浦 康星

Yasutoshi MIURA

1. はじめに

静岡県西端に位置する三ヶ日地区（静岡県浜松市北区）は、約 1,600ha のミカン園において、年間 3.5 万トン、約 90 億円の出荷を誇る全国屈指のミカン産地である。

本地区では、国営及び県営土地改良事業により末端まで用水施設が整備されたことで、高い品質と安定した量のミカンを生産することが可能となり、市場からも高い評価を得ている。また、農道や排水路の整備により、営農環境が格段に改善されたことで、経営規模の拡大や後継者の育成にもつながっている。

このように、基盤整備を最大限に活用することで、全国有数のブランド産地を築き上げた本地区の取組みについて紹介する。

2. 三ヶ日地区における基盤整備の歴史

本地区では、昭和 30 年代に入り栽培技術の進歩や需要の拡大、さらに機械開墾の発達などが相まって、園地面積が飛躍的に拡大し、その結果著しい用水不足を生じた。

このため、かんがい用水の確保が急務となり、昭和 50 年度から平成元年度にかけ、国営浜名湖北部農業水利事業により、頭首工、調整池、用水管路 55.2km 等の基幹的農業水利施設が整備された。また、昭和 51 年度から平成 21 年度にかけ、県営畑地帯総合整備事業により、畑地かんがい施設、農道、排水路等を静岡県が整備した。

3. ブランド力を支える基盤整備

（1）畑地かんがい施設の整備

県営事業で整備した畑地かんがい施設は、3 段階のステージ工法により段階的に進められ、ほぼ全ての園地において約 30a に 1 箇所割合で給水栓を設置した。かんがい施設は、かん水、防除、施肥等に幅広く利用され、収量増加と品質向上につながっており、反当たり収量は全国平均の約 1.25 倍である。

また、安定した水供給により、近年ではマルチシートによる遮水と点滴かんがいを併用したマルチドリップ工法の導入が進み、高糖度の「ミカエース」などの高付加価値商品が誕生するなど、かんがい施設の整備が更なるブランド力強化の後押しをしている。

（2）農道整備とスピードスプレーヤ（SS：自走式薬剤噴霧機）の導入促進

農道の整備によって、輸送・通作時間の短縮やミカンの荷傷みの防止が図られたことはもちろんのこと、SS を園地に搬入することが可能となったことで、農道整備後は SS の導入数が飛躍的に増加した。

現在では専業農家の大半が SS を所有しており、これまでの手作業の農薬散布に比べ大幅に営農労力の軽減が図られ、作業時間が半減したとの声も聞かれる。担い手農家が農地を借りるに当たっては、SS の乗入ができるかどうか大きな判断材料となる。

（3）排水路整備

ミカン園地における排水対策は非常に重要であり、本地区においては県営事業で全長

静岡県経済産業部西部農林事務所 Seibu Agriculture and Forestry Office, Economy and Industry

Department of Shizuoka Prefecture キーワード：農村振興、畑地灌漑、排水管理、道路計画・整備、スピードスプレーヤ、6 次産業化

約 38.9km もの排水路を整備した。ミカンは、排水が悪くなると土壌中の水分過多により糖度が上昇しないことから、排水改善がミカンの品質向上につながっている。

4. 産地活性化・地域振興の取組

(1) 産地を維持・強化する取組

①作業受託組合

本地区では、若手農家が中心となって、家族が病気などで作業ができない時の支援を行うための作業受託組合が3組織設立されている。この取組みによって、農地の遊休化を防止し、三ヶ日みかんの産地の維持を図っている。

②農地情報GISシステム

経営の向上・安定化のため、地図情報システム(GIS)を取り入れ、選果データを園地別に整理している。これを基に農協が個別指導を行い技術のレベルアップを図っているほか、農地中間管理事業による農地集積にも活用している。

(2) 商品のブランド価値を高める取組

①6次産業化

農商工連携により新たな商品開発と販路の拡大を図っている。果汁飲料や製パン等の多様な用途に利用がされる「三ヶ日みかんピューレ」や三ヶ日みかんを使ったオリジナル商品の「ピュアレスト蜜柑」「三ヶ日みかんアイスクリーム」、更にはサントリーと連携しメディアにも大きく取り上げられた「三ヶ日みかんハイボール」などがある。

②機能性表示食品制度

機能性表示食品制度を活用し、みかんが骨の健康に良いことを消費者にわかってもらうため機能性を表示し販売している。三ヶ日町民約1,000人を対象に行った調査研究により、うんしゅうみかんに含まれるβ-クリプトキサンチンが骨粗しょう症等の生活習慣病の予防に効果があることが明らかになったことから、平成27年に登録した。

③農業農村整備優良地区コンクール農林水産大臣賞

全国土地改良事業団体連合会が主催する「平成30年度農業農村整備優良地区コンクール」において、農林水産大臣賞を受賞した。本コンクールで三ヶ日地区は、基盤整備によって機械化を推進し、経営規模の拡大や後継者の育成が進んだ全国的な模範的な地区として評価された。

この受賞によって、基盤整備を契機とした三ヶ日地区の優良な取組みが様々な媒体で取り上げられ、広報された。

5. 更なるブランド力強化を目指した取組

三ヶ日地区は、基盤整備を最大限に活用することで、機械化を推し進め農作業の効率化を図り、全国屈指のブランド産地を築き上げた。

しかし、本地区には、機械の導入が困難な園地が約6割程度存在し、今後も産地を維持・強化するための基盤整備の推進が必要となると考えており、地域のニーズも高くなっている。

このため、静岡県では、三ヶ日地区を含む柑橘産地を強化するための基盤整備プロジェクトを本年度から立ち上げ、展開していく予定である。

【静岡県柑橘産地生産強化基盤整備プロジェクト(仮称)】

- ① SSの導入が可能な園地の拡大を目指し、基盤整備計画を策定
- ② 基盤整備及び集積・集約化計画を策定するためのGISを整備
- ③ 省力化・高品質化を実現する基盤整備手法を検討
- ④ 事業化に向けた地元調整の推進